

視点

映像メディア（ゲーム・スマホ）依存の 始まりは赤ちゃんの時から：発達障害診断の インフレ～ゲーム・スマホのマインドコントロール～ 大人になれない・笑顔のない日本の子どもたち



小児科医（仙台医療センター小児科元部長） 田 澤 雄 作

お母さん小児科医からの手紙：忙しい時代、個性的な長男に手を焼き、どうにもイライラしてしまい、落ち込むことも多かったですが、この頃はやっと、少しずつですが、子どもを見守ることに慣れてきたように思います。子どもの時は子どもらしく過ごしてほしいと最近特に強く感じます。お稽古事や字の読み書きなど、周りの話を耳にして焦る気持ちを感じることはありますが、いろいろと前もってさせるより、子どもがやる気を出すのを待って、自分の力を存分に発揮できる環境を作ってあげたいなあと、自分自身を諭しています。毎日の生活に追われて、毎日が反省の連続です。とは言え、とにかく二人（兄妹）とも元気で何とも言えない愛嬌もあり、笑いが絶えない日々でもあり、改めて、子どもの尊さを感じています。（略）

私の返信：幼い子はもともと「注意欠陥・多動」です。大人の役割は、大きな心身の外傷から子どもを守る、「見守る」ことです。我が家はOK、でも周りの家庭は？というこの時代を乗り越える「子育て」は難問ですね。周りに負けないように「早期教育、進学競争」を強制された子どもは、どこかで失速し、いじめや不登校、そして大人になれない（働くことができない）青年の急増（8年間で20倍）という近々の問題に巻き込まれています。この時代を生きる“あなたの子育て方針”言葉はよくありませんが“いわば放し飼い”は、結果として「問題なし」です。しかし、周囲の思慮のない（心ない）プレッシャーと争うことなく、家族が穏やかに笑顔で生きていくのが大変な時代を迎えています。幼いユーモアや機知に富む（愛嬌のある）子どもたちに囲まれた、笑いがたえない親子（家族）は、現代では希少価値になりつつあります。笑顔のない、まなざしが希薄な“顔なし”家族（例えば、親はスマホ、子どもはゲーム）、親子の時間を奪われる家族が蔓延している現実があります。（略）

子どもはもともと「発達の途上にある、未熟である」存在で、大人の基準で考える「正常」とは異なります。今起こっている“発達障害”増加の背景にあるのは、問題の最前線にいる教育・医療関係者が過剰診断の危険性のある“マニュアル診断”を安易に頻用し、「正常」を「異常」と診断する過誤（診断のインフレ）の拡散です^{1,2}。面倒なケースは「専門家へ紹介」する、外注化（丸投げ）する、お金（や薬などで）で解決しようとする新たな人為的なシステムです。さらに、テレビから始まりゲームやスマホまでの全ての映像メディアは、神経化学物質であるドーパミンなどの洗脳により^{2,3}、“麻薬依存”と同じように、人間の心を操り、ネット依存という精神的疾患をつくりだしました。最初に起こるのは「睡眠障害」ですが、ドーパミンやアドレナリンが「睡眠不足」や後述の「疲労」をマスクして依存をつくり、睡眠障害そして疲労（慢性疲労）を潜行させ、最後に心身のパワーを枯渇させ、人間的な生活を奪います。

笑顔は、脳の高次機能の中で最後に獲得されたものであり、なかなか壊れません。しかし、生物学的には、一番新しいものは過去のものを全部使っているのでは何処かが壊れるとすぐ壊れるので、一番高次なものは一番壊れやすいことになります⁴。慢性疲労も大人の認

知障害も前頭葉の高次機能の低下を示し、笑顔（表情）の希薄化がシンプルな共通のサインです（前者の機能低下は回復可能である点が大きな違いです）。日本は“一億総疲労”社会です。1991年、旧厚生省研究班は、“慢性疲労”を認定しましたが、その始まりは「赤ちゃん時」です⁵。現代は人類史上もっとも疲れやすい時代です。疲労を解消する睡眠の障害が大きな影響を与えますが、長時間に及ぶテレビ、ゲーム、スマホ（ブルーライト）視聴がこの問題の背景にあります。特に、子どもには「早寝早起き」の静かな睡眠がえられる養育環境が「子どもの正常発達」に大切であり、これが多様な現代の病的な問題の中核にある「慢性疲労」を予防し、回復させ、笑顔が素敵な子どもたちを再起させます⁵。

参考：1. アレン・フランセス、＜正常＞を救え、精神医学を混乱させるDSM-5への警告、講談社2013。／2. 田澤雄作、映像メディア・スマホ依存の始まりは赤ちゃんの時から～世界一寂しい・自尊心が低い・大人になれない・笑顔のない日本の子どもたち～発達障害“インフレ診断”の民・ゲームやスマホに“マインドコントロール”されるホモ・サピエンスの未来は？ 鳥取県小児科医会会報2019;41:19-23／3. キャスリン・マコーリフ、心を操る寄生物、感情から文化・社会まで、インターシフト2017。／4. 本庶佑、21世紀医学フォーラム 京都2000。／5. 田澤雄作、メディアにむしばまれる子どもたち～小児医からのメッセージ、教文館2015

私学助成園を対象とした 幼児教育の無償化に関する説明会が開催される

令和元年6月18日(火)、TKP市ヶ谷カンファレンスセンターにて、私学助成園を対象とする幼児教育の無償化に関する説明会が開催され、全国から500名を超える先生方が参加されました。主な内容は次の通りです。

■挨拶 全日本私立幼稚園連合会会長 香川 敬

冒頭、香川会長より挨拶があり、全国の私立幼稚園にとって20年来の悲願であった幼児教育の無償化がいよいよ実現すること、そのために全ての私立幼稚園が万全を期して臨まなければならないことなどについてお話がありました。

■講演①

演題「幼児教育の無償化～制度の詳細と必要な準備～」

講師 文部科学省初等中等教育局幼児教育課
専門官 岩岡 寛人 様

文科省より岩岡専門官をお招きし、先に示された制度に関する具体的な資料を基に、詳細多岐にわたる制度の概要と手続きについて説明がなされました。

とくに私学助成園は「子育てのための施設等利用給付」の創設により、これまで余り馴染みのなかった給付制度の考え方について詳しく説明があり、償還払いと法定代理受領の大きく分けて二つの仕組みが給付制度の基本的柱であること、またそれらは各市区町村と各地域の私立幼稚園団体との協議により進められることなどが説明されました。

そのほかに、無償化における入園料の取り扱いに関する事項、預かり保育の無償化に関する事項などについても現在の取り扱いとは大きく異なる点などが示され、具体的な制度設計について説明がなされました。



また、私学助成園における副食費等の「補足給付事業」についても制度の詳細と手続きに関する具体的な説明がなされました。

説明の最後には、10月の無償化実施に際して、国民の理解を得ながら、円滑な制度のスタートに向けて慎重に事を進めて行かなくてはならないことが確認されました。

■講演②

演題「無償化に向けて準備しておくべき事項（私学助成園版）」

講師 全日本私立幼稚園連合会総務委員長
坪井 久也

会の後半は坪井総務委員長より全日本私立幼稚園連合会として作成した解説版を手掛かりに、制度の詳細や留意点についてポイントを分かり易く説明して頂きました。またこの解説の中において私学助成園の事務の流れ、夏休みまでに保護者説明を終えておきたいこと、質の向上を伴った保育料改訂のポイント、新制度園と比べて事務量が増大するので事務職員の確保が必要であること等の説明がありました。

その後も終了時間一杯まで熱心な解説がおこなわれ、会は終了しました。

(調査広報専門委員 前田幹)

平成 30 年度事業報告・収支決算等決議

★ 5・30 第 18 回理事会

5 月 30 日、(公財)全日私幼研究機構の第 18 回理事会が東京・私学会館で開催され、理事 13 人が出席しました。東重満理事長が議長となり、議事録署名人は、満場一致をもって内山昭理事、黒田秀樹理事が選任されました。

【決議案件】

1、平成 30 年度事業報告の承認の件

議長、加藤篤彦研究研修委員長、川名マミ調査広報委員長より、平成 30 年度事業報告について説明がありました。加藤研究研修委員長からは、平成 30・31 年度教育研究課題と保育者としての資質向上研修俯瞰図、ECEQ と ECEQ コーディネーター、免許状更新講習、幼児教育実践学会、全国研究研修担当者会議、園長・リーダー研修会、研修ハンドブック、第三者評価への取り組みについて説明がありました。川名調査広報委員長からは、PTA しんぶん・私幼時報の発行、賛助会員の加入促進、ホームページを活用した広報活動、ようちえん絵本大賞、こどもがまんなか P R O J E C T 推進の広報活動について説明がありました。議長からは、国際交流、各都道府県団体との連携について説明がありました。審議の結果、定款第 8 条第 1 項第 1 号及び第 2 号の規程に基づき一同に諮ったところ、満場一致をもって決議されました。

2、平成 30 年度収支決算の承認の件

議長、事務局より平成 30 年度貸借対照表・正味財産増減計算書及び附属明細書並びに財産目録及び収支計算書について、境田正樹監事より平成 30 年度監査報告について説明がありました。定款第 8 条第 1 項第 3 号から第 6 号までの規定に基づき一同に諮ったところ、満場一致をもって決議されました。



3、定時評議員会開催の件

議長より、定時評議員会を 6 月 18 日に開催するとの説明があり、定款第 17 条第 1 項の規定に基づき一同に諮ったところ、原案通り満場一致をもって決議されました。

【報告案件】

1. 理事長からの執行報告について

東理事長より、平成 30 年度の事業報告ならびに収支状況についての報告がありました。

★ 6・18 第 13 回評議員会

6 月 18 日、(公財)全日私幼研究機構の第 13 回評議員会が、東京・私学会館で開催され、評議員 16 人が出席しました。定款第 18 条に基づき、議長に中邑隆哉評議員を選任、議事録署名人に村山十五評議員、山崎英明評議員を選任し議事に入りました。

【報告案件】

1、平成 30 年度事業報告の件

東理事長、加藤篤彦研究研修委員長、川名マミ調査広報委員長より、平成 30 年度事業報告について資料をもとに説明がありました。

【決議案件】

1、平成 30 年度収支決算の件

東理事長、事務局より、平成 30 年度貸借対照表・正味財産増減計算書及び附属明細書並びに財産目録及び収支計算書について資料に基づき説明があり、定款第 8 条第 1 項第 3 号から第 6 号までの規程に

基づき一同に諮ったところ、満場一致をもって決議されました。

【その他】

東理事長より 3 歳未満児の発達と保育への取り組みについてお話がありました。

（（公財）全日私幼研究機構専務理事・田中雅道）

（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 平成 30 年度事業報告

◇平成 30 年度会合等の概要

（1）理事会：平成 30 年 5 月 29 日第 15 回理事会（17 人出席）〔東京・私学会館〕、平成 30 年 12 月 7 日第 16 回理事会（14 人出席）〔東京・私学会館〕、平成 31 年度 3 月 11 日第 17 回理事会（16 人出席）〔東京・私学会館〕、（2）評議員会：平成 30 年 5 月 29 日 11 回評議員会（23 人出席）〔東京・私学会館〕、平成 31 年 3 月 26 日第 12 回評議員会（19 人出席）〔東京・私学会館〕、（3）監査会：平成 30 年 4 月 25 日監査会（5 人出席）〔東京・私学会館〕、平成 30 年 10 月 30 日監査会（5 人出席）〔東京・全日私幼研究機構事務局〕

◇委員会活動等一覧

4 月 12 日研究研修委員会東京・私学会館 4 月 13 日 ECEQ 打合会東京・東京大学 4 月 17 日研修スタンプ発行方法説明会東京・グランドヒル市ヶ谷 4 月 25 日監査会東京・私学会館 5 月 7 日第 14 回理事会東京・私学会館 5 月 15 日 ECEQ コーディネーター養成小委員会東京・全日私幼研究機構事務局、研究研修委員会東京・私学会館 5 月 17 日研修の構築についての打合会東京・全日私幼研究機構事務局 5 月 26 日免許状更新講習東京・私学会館 5 月 27 日免許状更新講習東京・私学会館 5 月 29 日第 11 回評議委員会東京・私学会館、第 15 回理事会東京・私学会館 6 月 8 日打合会京都・私学会館 6 月 25 日調査広報委員会打合会東京・全日私幼研究機構事務局 6 月 27 日研究研修委員会東京・私学会館 7 月 3 日 ECEQ コーディネーター養成講座

東京・砂防会館 7 月 4 日 ECEQ コーディネーター養成講座東京・武蔵野東第一・第二幼稚園 7 月 10 日砂場研究打合会東京・全日私幼研究機構事務局 7 月 12 日調査広報委員会東京・全日私幼研究機構事務局 7 月 22 日免許状更新講習東京・私学会館 7 月 23 日免許状更新講習東京・私学会館 7 月 24 日 ECEQ コーディネーター打合会東京・全日私幼研究機構事務局 8 月 14 日文科科学省委託事業打合会東京・文科科学省 8 月 16 日研究研修委員会埼玉・東京家政大学 8 月 17 日第 9 回幼児教育実践学会埼玉・東京家政大学 8 月 18 日第 9 回幼児教育実践学会埼玉・東京家政大学、ECEQ コーディネーターフォローアップ研修会埼玉・東京家政大学 9 月 12 日 PTA しんぶん小委員会東京・全日私幼研究機構事務局 9 月 19 日 ECEQ・評価等打合会東京・全日私幼研究機構事務局 9 月 20 日文科省委託事業小委員会東京・全日私幼研究機構事務局 9 月 26 日文科省委託事業研究検討委員会東京・私学会館、研究研修委員会東京・私学会館 10 月 1 日園長・リーダー研修会打合会東京・大妻女子大学 10 月 10 日調査広報委員会東京・全日私幼研究機構事務局 PTA しんぶん小委員会東京・全日私幼研究機構事務局 10 月 15 日 ECEQ コーディネーター養成小委員会東京・全日私幼研究機構事務局 10 月 20 日発達保育実践政策学センター公開シンポジウム東京・東京大学 10 月 30 日監査会東京・全日私幼研究機構事務局 11 月 2 日内閣府・監査会東京・別館 1 階財団会議室 11 月 7 日文科省委託事業研究検討委員会東京・私学会館、研究研修委員会東京・私学

会館 11 月 21 日研究研修委員会東京・私学会館、平成 30 年度園長・リーダー研修会東京・東京大学 11 月 22 日平成 30 年度園長・リーダー研修会東京・東京大学 11 月 27 日 PTA しんぶん小委員会の開催について東京・全日私幼研究機構事務局 11 月 28 日 ECEQ 打合会東京・東京大学 12 月 7 日第 16 回理事会東京・私学会館 12 月 10 日 3 歳児未満プロジェクト小委員会大阪・私学会館 1 月 16 日研究研修委員会京都・京都ガーデンパレス 1 月 17 日平成 30 年度全国研究研修担当者会議京都・京都ガーデンパレス、ECEQ コーディネーター養成小委員会京都・ガーデンパレス 3 歳児未満プロジェクト小委員会京都・ガーデンパレス文科省委託事業研究小委員会京都・ガーデンパレス 1 月 18 日平成 30 年度全国研究研修担当者会議 1 月 23 日第 10 回幼児教育実践学会・事前打合会静岡・常葉大学 1 月 24 日 PTA しんぶん小委員会東京・全日私幼研究機構事務局、調査広報委員会東京・全日私幼研究機構事務局 1 月 28 日文科省委託事業研究小委員会東京・全日私幼研究機構事務局 2 月 6 日 ECEQ 打合会東京・東京大学 2 月 13 日 ECEQ コーディネーター養成講座東京・グランドヒル市ヶ谷 2 月 19 日幼稚園ナビ担当者会議東京・私学会館 2 月 27 日調査広報委員会東京・全日私幼研究機構事務局、砂場研究打合会京都・私学会館 3 月 11 日文科省委託事業研究検討委員会東京・私学会館、研究研修委員会

東京・私学会館、第 17 回理事会東京・私学会館 3 月 26 日第 12 回評議員会東京・私学会館

1、幼児教育にかかわる者の資質向上に関する事業

(1) 平成 30・31 年度「教育研究課題」及び研修俯瞰図の周知

平成 30・31 年度「教育研究課題」及び「保育者としての資質向上研修俯瞰図」の内容について周知した。

(2) 幼稚園・認定こども園における学校評価の充実に向けた事業の企画・検討

・ECEQ コーディネーター養成講座、フォローアップ研修の企画・実施

今年度の ECEQ コーディネーター養成講座では全国から約 45 名が参加した。講座Ⅰ・Ⅱとして平成 30 年 7 月 3 日に東京・砂防会館において岡健大妻女子大学教授による講義を実施、また翌日 4 日には東京・武蔵野東第一、第二幼稚園で公開保育を実施した。

平成 31 年 2 月 13 日には東京・グランドヒル市ヶ谷において養成講座Ⅲを開催した。なお、昨年度に引き続き 2 年間の養成とし、2 年間の内に自園において ECEQ を実施することを必須要件とした。

また平成 29 年度 ECEQ コーディネーター養成講座受講者等 38 名に対し、2 年間の受講期間、また自園での ECEQ を履修した事により「ECEQ コー

保育力の向上のために

資質向上の取組の証明に

キャリアパスや免許更新のために
研修の記録を大切に残しておきましょう！

監修 公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

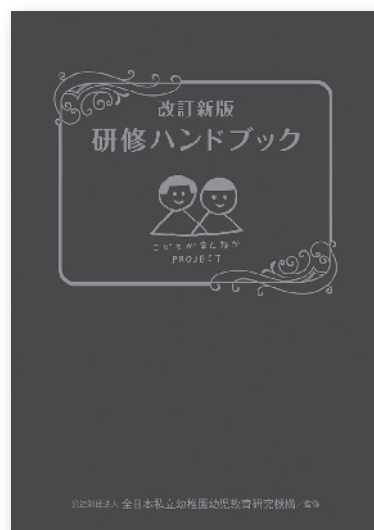
改訂新版 研修ハンドブック

4145301 **648 円** (本体 600 円)

●B6 判
●112 ページ

ご用命はお近くの書店、またはワンダー販売会社まで。

株式会社 世界文化社 ワンダー CS 事業本部
TEL03-3262-5128



ディネーター認定証」を発行した。

ECEQ コーディネーターフォローアップ研修会を第9回幼児教育実践学会と並行して、埼玉・東京家政大学狭山キャンパスで開催した。ECEQ コーディネーター 44 名が参加した。

・評価者の育成（認定こども園第三者評価への対応）

今年度は岩手県・修紅短期大学附属認定こども園と長崎県・認定こども園早岐幼稚園で認定こども園における第三者評価を実施した。

（3）免許状更新講習等についての企画・検討

・文部科学大臣の認定を受け、平成 30 年度は全国で、210 講習（必修 44 講習、選択必修 44 講習、選択 122 講習）を実施。延べ人数約 27,000 人が受講した。

・本財団独自事業として、5 月 26 日・27 日、7 月 22 日・23 日、12 月 22 日・23 日の 3 回、東京都千代田区において免許状更新講習必修講習および選択必修講習を開催した。

・教育職員免許法施行規則等の一部改正により平成 28 年 4 月より新たに追加された「選択必修領域」について、カリキュラムの検討を行い都道府県ならびに受講者への周知を行った。

（4）「幼児教育実践学会」の実施

「第9回幼児教育実践学会」を平成 30 年 8 月 17 日・18 日に埼玉県狭山市・東京家政大学狭山キャンパスにて 2 日間開催した。全国から約 700 名の参加を得た。基調講演Ⅰは、聖心女子大学教授・河邊貴子氏を講師に迎え、「豊かな学びに溢れた「遊び」とは何か」をテーマに行われた。続く基調講演Ⅱでは、「2 歳児って面白い～「やりたい」が発揮される生活の中で～」をテーマに、お茶の水女子大学教授・文京区立お茶の水女子大学こども園園長・宮里暁美氏を園長に迎え、講演を行った。2 日目は、午前の口頭発表Ⅰ、午後の口頭発表Ⅱそれぞれ 9 発表が行われ、また昼食の時間と並行して、44 のポスター発表が行われた。

（5）全国研究研修の推進

①全国研究研修担当者会議の開催

1 月 17 日・18 日の両日、京都府京都市・京都ガーデンパレスにおいて、「平成 30 年度全国研究

研修担当者会議」を開催し、全国から都道府県研究研修担当者等あわせて 116 名の先生方が出席した。1 日目は神戸大学大学院准教授・北野幸子氏を迎え「乳幼児教育の質を維持・向上させるために～地域で園の果たす役割～」をテーマに講演が行われた。続いて「保育の質の向上チャレンジビジョンについて」をテーマに（公財）全日私幼研究機構・東重満理事長が講演、また「全日私幼研究機構の取り組みについて」をテーマに（公財）全日私幼研究機構・加藤篤彦研究研修委員長が講演を行った。2 日目は「3 歳未満児の発達並びに保育及び家庭教育の支援について」をテーマに、講師に、梅花女子大学教授・あけぼの幼稚園園長・（公財）全日私幼研究機構前副理事長・安家周一氏、全日私幼研究機構・川原恒太郎研究研修副委員長、全日私幼研究機構・水原紫乃研究研修委員、全日私幼研究機構・亀ヶ谷忠宏専門委員により講演が行われた。

②地区教育研修大会の実施

北海道地区＝7 月 30 日（北海道・札幌市）、札幌ブロック：10 月 19 日・20 日（札幌市）、道央ブロック：9 月 1 日（小樽市）、道南ブロック：10 月 6 日（伊達市）、道東ブロック：9 月 29 日（幕別町）、道北ブロック：9 月 29 日（旭川市）、東北地区＝10 月 19 日・20 日（岩手県・一関市）、関東地区・神奈川地区＝8 月 21 日・22 日（千葉県・千葉市）、東京地区＝7 月 25 日・26 日（東京都・千代田区）、東海・北陸地区＝7 月 26 日・27 日（静岡県・静岡市）、近畿地区・大阪地区＝7 月 24 日・25 日（奈良県・奈良市）、中国地区＝8 月 22 日・23 日（鳥取県・米子市）、四国地区＝8 月 7 日・8 日（香川県・高松市）、九州地区＝8 月 6 日・7 日（長崎県・長崎市）

③地方の教育研修体制のサポート

各地域における教育研修体制のサポートについて検討を行い、各都道府県における研修会に対しての助成事業を行った。

④園長・リーダー研修の実施

全国の幼稚園・認定こども園の園長等を対象とした研修について、教育のリーダーとして必要な研修内容等について検討を行い、「教育・保育を創る」「マ

ネジメントを構築する」「同僚性を高め保護者・地域・社会・行政と連携する」の3つの課題を中心にカリキュラム案を作成し、11月21日・22日に行われた。1日目を東京大学・福武ホールラーニングシアターにて、2日目東京・アルカディア市ヶ谷私学会館にて開催した。全国から約100名の参加者を得た。

1日目は、まず（公財）全日私幼研究機構・東重満理事長が「園長・リーダーの学びとは」をテーマに講義を行った。次に、東京学芸大学教授・岩立京子氏が「幼児教育における評価－何のために、どのような評価を行うのか－」をテーマに講義を行った。続いて、「保育を語る組織を作る・チームビルド」をテーマに、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター准教授・野澤祥子氏が講義を行った。1日目の最後に「日本の幼児教育の現在と未来」をテーマに文部科学省初等中等教育局幼児教育課課長・先崎 卓歩氏の講演が行われた。

2日目は、まず島根大学大学院教授・肥後功一氏を迎え、「遊びから学びへー改定幼稚園教育要領をどう実践につなげるかー①②」をテーマに講義・ワークショップを行った。続いて、大妻女子大学教授・岡健氏を講師に、「カリキュラムマネジメント～園内研修を手掛かりにして～①②」をテーマに講義を行った。

⑤ 3歳未満児の発達と保育についての研修会の企画・実施

・各地区（各県）において乳児期の育ちを支える研修の充実や保育者の育成に取り組んだ。また、3歳未満児の研修を全国で進めるべき、テキストの作成について検討を行った。また1月に実施した「平成30年度研究研修担当者会議」にて3歳未満児の発達と保育に関する講演を行った。

⑥ 主幹教諭研修及びミドル・リーダー研修の企画・検討

・主幹教諭研修及びミドル・リーダー研修について検討した。

⑦ 幼稚園教育要領の改訂に関する研修の推進

・幼稚園教育要領の改訂に関する研修を企画・実施するとともに、各地区（各県）で開催する研修会

をサポートした。

（6）「研修ハンドブック」の活用周知

幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂や幼稚園・認定こども園における学校評価やキャリアパス等に伴い「研修ハンドブック」の改訂を行った。また、研修スタンプ発行のルールについて検討し、各都道府県における研修会にて研修スタンプを発行した。

（7）優秀教員表彰者制度の実施

本財団「優秀教員表彰者」制度の要項等に従い表彰者を7人選定し、第9回幼児教育実践学会（8月17日）において表彰式を行った。

2、幼児教育に関する調査及び研究

（1）乳幼児の育ちを支える家庭教育と地域の教育の支援事業の研究

家庭や地域の教育機能が低下している現状を踏まえ、幼稚園が行う家庭や地域への教育機能支援についての研究を行った。

（2）乳幼児期の教育環境のあり方の研究

幼稚園の環境として砂場に焦点を当て、遊びの中での行動や人間関係、言葉の発達などについて調査し、子どもの育ちの視覚化を行った。

（3）幼児教育実践事例研究

各都道府県、各地区等で研究されている実践事例について、幼児教育実践学会において口頭発表ならびにポスター発表で研究発表を行い、その内容を私幼時報に掲載した。

（4）幼稚園におけるカリキュラム・マネジメントの研究

幼稚園において適切な教育課程を編成し、実施・評価し改善していく、カリキュラム・マネジメントについての研究を行った。

（5）5歳児が幼稚園にいることの意味を考える

従来からの継続課題「5歳児が幼稚園にいることの意味を考える」についての実践研究にあたっては、幼稚園教育要領の改訂を踏まえ、幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿として捉えながら、幼児教育の在り方や小学校教育との接続について建言できる研究としても取り組んだ。

(6) 幼稚園におけるインクルーシブ教育システムの充実に関する調査研究

「障害者差別解消法」の施行にともない、関係機関と協力して調査研究をすすめ、インクルーシブ教育にむけての啓発や個別の合理的配慮の充実など保育の質の向上に努めた。

(7) 学校評価

ECEQ を推進することで、私立幼稚園における学校評価（自己評価及び学校関係者評価）の充実を図った。また認定こども園における公開保育を活用した第三者評価を試行し、平成 30 年度は岩手県、長崎県の認定こども園 2 園において実施した。

3、家庭・地域における幼児期の教育力向上への支援と広報活動

(1) P T A しんぶんの発行

「子どものしあわせを願う親と先生のひろば」をスローガンに、全日私幼連 P T A しんぶんを発行し、幼児教育や幼児の発育・子育てに役立つ情報を掲載した。年間 11 回発行し、4 月号は加盟園の全園児に配布を行った。著名な方々の子育て体験や、子育てに役立つ特集、学識者の連載企画、全国の園長等が執筆する「育ての心」「ふれあい」等のコラムを掲載した。

また、来年度 9 月号には特別号として、タブロイド版 8 ページ形態で全園児配布を予定しており、

小委員会を発足して内容の検討をすすめている。

(2) 賛助会員（園児の保護者等）の加入促進

4 月号の全園児配布や内容の充実化を通じ、積極的に働きかけて、賛助会員の加入促進に努めた。

(3) 私幼時報の発行

全国の私立幼稚園設置者・園長を対象に本財団の機関誌『私幼時報』を年 12 回発行した。各種会議・研修内容の報告をはじめ、政府予算概要、地区教研大会概要、幼児教育実践学会での口頭発表・ポスター発表概要、免許状更新講習一覧表、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・発達保育実践政策学センター(Cedep)共催シンポジウム概要等の掲載、情報提供を行った。

(4) ホームページを活用した広報活動

ホームページを活用して、幼児教育に携わる者、子育て中の保護者、設置者・園長に向けて、子育ての大切さや尊さを訴えていくとともに、幼児教育に関わる必要な情報提供のさらなる充実を図った。

(5) 調査の実施

幼稚園・認定こども園の人材確保状況についての調査活動を検討し、経営委員会との連携も含め、次年度に申し送りとした。

(6) 幼児教育の発展に寄与する絵本の顕彰

第 10 回ようちえん絵本大賞は、「新しい絵本をみつめよう」をテーマに、いろいろなジャンルから、「子どもに読み聞かせたい絵本」、「お父さん・お母



チャイルドブックの月刊保育雑誌

ポット

2019 4

20ページ大特集

不安を安心して変える

18セント

定価 本体 1,000 円 + 税

<http://www.childbook.co.jp/pot/>

2019

大きくなって読みやすく!

リニューアル!

ワンテーマ 20 ページの巻頭大特集を毎月掲載!

チャイルド本社

〒112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21
TEL 03-3813-2141 FAX 03-3814-3392
<http://www.childbook.co.jp/pot/>

ご注文は、貴園担当のチャイルドブック販売店または書店まで。

さんに読んでほしい絵本”を選考の基準として、過去おおむね5年以内に出版された絵本の中から調査広報委員会が選考を行った。その結果、特別賞4作品を含む16冊の絵本が第10回ようちえん絵本大賞に選ばれた。

また、第10回開催を記念して、「私のベストストーリー」と題して、審査員である調査広報委員より3冊ずつ心に残る絵本の推薦を行なった。

各受賞作品は平成31年度PTAしんぶん9月号にて発表を予定している。

(7) こどもがまんなか PROJECT 推進のための広報活動

PTAしんぶん、私幼時報、ホームページ等を通じて、こどもがまんなか PROJECT の活動内容の報告やイベント・発刊物告知を行い、こどもがまんなか PROJECT 推進のための広報活動を行った。また、こどもがまんなか PROJECT と協同し、冊子『未来を生きる子どもたちのために～幼児教育をもっと豊かに～』を刊行し、加盟園に無償で配布を行った。

4、幼児教育における国際交流等に関する事業

平成30年10月20日に開催された（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・東京大学発達保育実践政策学センター（Cedep）合同シンポジウム「市民としての子どもを考える教育の可能性～ス

ウェーデンにおけるレッジョ・インスパイアの幼児教育に注目して～」に、役員等を派遣した。また、昨年度行われた東京大学発達保育実践政策学センター共催シンポジウム「東アジアの保育・幼児教育改革～現職研修と評価を通じた保育者の専門性向上～」の報告を私幼時報に掲載した。

5、本財団の組織・運営に関する事項

各都道府県団体と連携を図りながら上記の事業に取り組み、成果を得られた。

附属明細書

平成30年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

(株)学研教育みらい

東京都品川区西五反田2-11-8
幼児教育事業部

お問い合わせは
フリーダイヤル 0120-833-415

園ぴゅう太のメールサービス



サーバー二重化!

らくらくメール
園から保護者へらくらくメール送信！
組別・個別送信、既読確認もできます。
サーバー二重化で、いざという時も安心です。

スマホで

らくらくバスメール
スマートフォンでバスメールを送信！
大きなボタン表示で画面操作もらくらく。
タップするだけでメール送信できます。



**ぜ～んぶ学研に
おまかせ!!**

心機一転！
リニューアル

オリジナル！
**キャラクター
ロゴ**

Flashで
動画!

らくらくホームページ
目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新
もお電話・FAXで対応します。
「お知らせ更新は園で…」というご要望にも
システム併用でご対応いたします。

(公財) 全日私幼稚園教育研究機構
正味財産増減計算書
平成30年4月1日から 平成31年3月31日まで

(単位: 円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	9,994	7,503	2,491
特定資産運用益	66	2,556	△ 2,490
会費	69,645,250	71,186,950	△ 1,541,700
普通会员会費	3,019,200	3,030,400	△ 11,200
賛助会員会費	66,626,050	68,156,550	△ 1,530,500
事業収益	181,482,379	108,372,324	73,110,055
全国研究研修担当学会議収益	3,495,000	4,540,000	△ 1,045,000
教員免許更新受講料収益	171,725,666	97,484,827	74,240,839
調査研究事業収益	3,391,713	2,748,497	643,216
幼児教育研究実践学会収益	2,870,000	3,599,000	△ 729,000
補助金等	32,399,996	44,280,000	△ 11,880,004
日宝協助成金等	32,399,996	44,280,000	△ 11,880,004
地区別研修会助成金	0	0	0
寄付金	0	0	0
雑収益	8,253,947	6,993,376	1,260,571
受取利息	4,369	4,331	38
その他収益	8,249,578	6,989,045	1,260,533
事業活動収入計	291,791,632	230,842,709	60,948,923
(2) 経常費用			
事業費	279,744,059	216,749,271	62,994,788
給料手当	22,013,262	19,716,298	2,296,964
臨時雇賃金	7,684,356	3,595,279	4,089,077
退職給付費	2,223,120	1,629,280	593,840
福利厚生費	3,152,922	3,082,304	70,618
会議費	45,223,070	30,808,662	14,414,408
旅費交通費	31,263,453	29,157,924	2,105,529
通信運搬費	69,474,906	51,290,034	18,184,872
消耗品費	5,171,456	3,259,318	1,912,138
減価償却費	99,675	23,062	76,613
印刷製本費	55,310,716	45,521,304	9,789,412
賃借料	5,668,900	5,224,700	444,200
諸謝金	25,327,981	19,620,039	5,707,942
支払手数料	144,365	122,947	21,418
光熱水料費	50,454	30,701	19,753
支払寄付金	1,200,000	1,200,000	0
雑費	5,735,423	2,467,419	3,268,004
管理費	13,409,392	9,014,453	4,394,939
給料手当	5,503,315	4,929,074	574,241
退職給付費	555,780	407,320	148,460
福利厚生費	788,230	770,576	17,654
会議費	677,998	367,810	310,188
旅費交通費	5,050,748	1,791,158	3,259,590
通信運搬費	173,726	120,217	53,509
消耗品費	1,558	161,188	△ 159,630
印刷製本費	29,227	92,467	△ 63,240
賃借料	0	0	0
諸謝金	402,047	180,420	221,627
支払手数料	15,887	18,101	△ 2,214
雑費	210,876	176,122	34,754
経常費用計	293,153,451	225,763,724	67,389,727
当期経常増減額	△ 1,361,819	5,078,985	△ 6,440,804
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,361,819	5,078,985	△ 6,440,804
一般正味財産期首残高	76,289,034	71,210,049	5,078,985
一般正味財産期末残高	74,927,215	76,289,034	△ 1,361,819
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	100,000,000	100,000,000	0
指定正味財産期末残高	100,000,000	100,000,000	0
III 正味財産期末残高	174,927,215	176,289,034	△ 1,361,819

(公財) 全日私幼幼児教育研究機構
貸借対照表
平成31年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
流動資産			
現金・預金	72,173,550	78,241,616	△ 6,068,066
未収入金	2,901,213	1,848,497	1,052,716
流動資産合計	75,074,763	80,090,113	△ 5,015,350
固定資産			
基本財産			
基本財産引当資産	100,000,000	100,000,000	0
基本財産合計	100,000,000	100,000,000	0
特定資産			
退職給付引当資産	15,785,500	13,527,400	2,258,100
特定資産合計	15,785,500	13,527,400	2,258,100
その他固定資産			
什器備品	170,663	198,338	△ 27,675
ソフトウェア	4,248,000	0	4,248,000
保証金	1,140,000	1,140,000	0
その他固定資産合計	5,558,663	1,338,338	4,220,325
固定資産合計	121,344,163	114,865,738	6,478,425
資産合計	196,418,926	194,955,851	1,463,075
II 負債の部			
流動負債			
未払金	1,263,907	849,970	413,937
前受金	4,028,500	3,875,500	153,000
預り金	413,804	413,947	△ 143
流動負債合計	5,706,211	5,139,417	566,794
固定負債			
退職給付引当金	15,785,500	13,527,400	2,258,100
固定負債合計	15,785,500	13,527,400	2,258,100
負債合計	21,491,711	18,666,817	2,824,894
III 正味財産の部			
指定正味財産			
寄付金	100,000,000	100,000,000	0
指定正味財産合計	100,000,000	100,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(100,000,000)	(100,000,000)	(0)
一般正味財産	74,927,215	76,289,034	△ 1,361,819
正味財産合計	174,927,215	176,289,034	△ 1,361,819
負債及び正味財産合計	196,418,926	194,955,851	1,463,075

ECEQ コーディネーター養成講座 2 都市で開催

6月13日、14日 東京・私学会館

6月20日、21日 大阪・私学会館

(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構主催の「ECEQコーディネーター養成講座Ⅰ・Ⅱ」が東京と大阪の2都市で開催されました。まず6月13日、14日に東京・私学会館にて開催された講座には各日程58名と57名の先生方が受講されました。続いて6月20日、21日開催の大阪・私学会館では各日程73名、71名に及ぶ先生方が受講されました。1日目にECEQの意義と目的について確認し、その後、ECEQコーディネーターの役割への理解を深めました。2日目は、ECEQのSTEP1～STEP3について講義が行われました。概要は下記の通りです。

◇1日目・講座Ⅰ

1. ECEQの意義と目的について

(1) 幼児教育の今

(公財)全日私幼研究機構理事長 東 重満

(2) ECEQの目的

(3) ECEQの仕組

(公財)全日私幼研究機構研究研修委員長

加藤 篤彦

2. ECEQコーディネーターの意義と役割

(1) ECEQコーディネーターの意義と役割

(2) ファシリテーションとは何か

(公財)全日私幼研究機構研究研修協力委員

秦 賢志

◇2日目・講座Ⅱ

1. STEP1からSTEP2について

(1) STEP1の目的と方法

(2) STEP2の目的と方法

(公財)全日私幼研究機構研究研修専門委員

岡本 潤子(東京会場)

(公財)全日私幼研究機構研究研修協力委員

平林 祥(大阪会場)

2. STEP3について

(1) STEP3の目的と方法

(2) ECEQの特長である『問い』について

(3) 『問い』作りまでの園内研修について

(公財)全日私幼研究機構研究研修協力委員

秦 賢志

閉会あいさつ

(公財)全日私幼研究機構副理事長

宮下 友美恵

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とキャリア

毎月2日発売



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

私学事業団からのお知らせ

加入者の健診結果を提出してください

令和元(2019)年度の特健康診査(特定健診)のご案内を6月下旬に送付しました。

特定健診の対象者である加入者の定期健康診断を実施しましたら、必ずその健診結果を私学事業団まで提出してください。提出いただいた健診結果に基づき、健康な生活を送るために役立つ健康情報冊子「QUPiO Plus(クピオプラス)」を送付します。また、健診結果から生活習慣病のリスクが高い人に対しては、特定保健指導を無料で受けられる「特定保健指導利用券」を同封します。

健診結果の

第1回提出期限は、

9月30日です。

健康診断を
受けました!!



幼稚園から、
加入者の健診結果を
私学事業団に提出し
てください。



「QUPiO Plus(クピオプラス)」
で加入者の健康に役立つ情報をお知らせします。

* 被扶養者の健診結果は、受診した実施機関(医療機関)から私学事業団に提出されます。

相談料無料

メンタルヘルス等相談サービス

私学事業団健康相談ダイヤル

心と体のさまざまな相談に医師・保健師・助産師・看護師などがお応えします。

対象者：加入者(任意継続加入者を含む)とその家族及び75歳以上の教職員

健康相談

メンタルヘルス相談

医療相談

育児・介護相談

セカンドオピニオン相談

通話料
無料

24時間 悩みいらず
0120(24)7831

24時間
年中無休

WebカウンセリングURL

<https://t-pec.jp/websoudan/>

ユーザー名：shigaku

パスワード：247831

電話・Web・面談によるメンタルヘルスカウンセリングも行っています(面談は、年度内5回まで無料)。

セカンドオピニオン相談 **通話料無料 0120 (36) 8102** 月曜日～土曜日 9:00～18:00

プライバシー保護を厳守していますので、安心して利用してください。

日本私立学校振興・共済事業団

福祉部 保健課 健康管理係・保健係

〒113-8441 東京都文京区湯島1-7-5

電話 03 (3813) 5321 (代表)

FAX 03 (3812) 8775

私幼時報では、令和元年5月号から10月号の6回にわたり、平成30年10月20日に開催された東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(Cedep)と、SGU戦略的パートナーシップ大学プロジェクトストックホルムチーム、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構、東京大学教職支援ネットワークによる合同シンポジウム「市民としての子どもを考える教育の可能性～スウェーデンにおけるレッジョ・インスパイアの幼児教育に注目して～」の内容を報告します。先月号に引き続き、ストックホルム大学講師・研究員のBodil Halvars(ボーディル・ハルバース)氏と、Ingela Elfstrom(インゲラ・エルフトロム)氏の講演を報告いたします。なおこの報告は便宜上一人称で書きますが、全て引用という訳ではなく、一部岡本和貴先生(徳島・わかさ幼稚園)が加筆・修正をしておりますことをご了承ください。当日配付されたスライド資料は、発達保育実践政策学センターのシンポジウム報告ページ(http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/project_report/symposiumseminar/sympo_181020/)からダウンロードできますので、ご参照ください。

ストックホルム大学講師・研究員 Bodil Halvars(ボーディル・ハルバース)氏、Ingela Elfstrom(インゲラ・エルフトロム)氏／講演概要

学びが関係性のある場であるということ：スウェーデンにおけるレッジョ・インスパイアの幼児教育・保育の経験から④

Ingela Elfstrom 先生講演

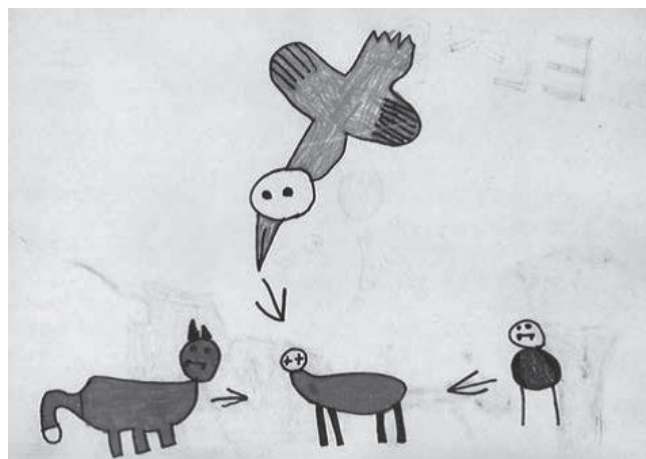
【死と再生】

私が研究論文で取り上げたプロジェクトに関わっていたのは、小学校に上がる前の最終学年の20人の子どもたちです。当初、このプロジェクトの名前は、「生と死」と名付けられていました。しかし、プロジェクトが進むにつれて、子どもたちは生まれて死んでというサイクルについて、より興味があるということが分かったので、途中でプロジェクトの名前は「死と再生」に変わりました。

【ノロジカ・プロジェクト】

子どもたちがプリスクールのある森で、死んだノロジカと出会いました。それはまるで寝ているような状態でした。子どもたちは、このノロジカがなぜ死んだのか、強い関心を持ちました。最初に発見してから数週間たった頃、現場に立つとあまりいい感じではないですし、いい匂いもしません。コバエや小さな虫がその死体にたかっていますので、その場ににいるということが、とても強い印象を子どもたちに与えました。

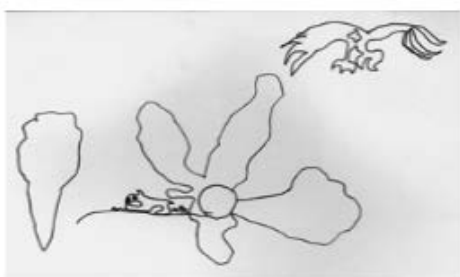
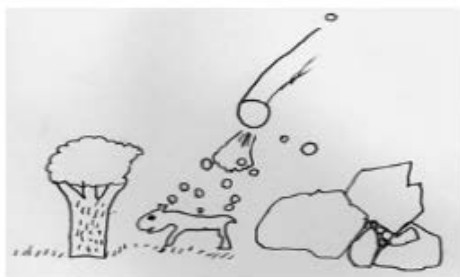
子どもたちは、なぜノロジカが死んだのかという



▲ノロジカの死に対する子どもたちの考え

ことについて、さまざまな考えを持っていました。「ハンターが銃で撃った?」「年を取って死んだ?」「病気になって死んだ?」「山から転がり落ちて頭を石にぶつけて死んだ?」「それともワシが捕った獲物をノロジカの頭に落としてそれがぶつかって死んだ?」とか。そのアイデアの中には、子どもたちの空想もありますし、テレビで見た鳥が何かを落とすような映像や、実際に自分が経験した転んで頭を打つとか、年を取って死ぬとか、病気になって死ぬとか…。その中で最もファンタジー色の強い仮説は、「宇宙船が宇宙からやってきて、そいつがノロジカ

の体の中の空気を全て吸い取ったので、ノロジカは息ができなくなって、窒息して死んでしまった」というものでした。



▲宇宙船の仮説

彼らは、いろいろな考えを持ってはいたのですが、一定以上の結論、実際になぜ死んだのかということにはたどり着けなかったし、どのように探究すればいいのかということも分からなくなったので、「どうしたら死んだ原因が分かるのか」ということを教師に尋ねました。「ノロジカの死骸に何が起きているのか」「姿が変わっているのか」「何が起きたのか」という問いももっていました。

ノロジカのところに継続して戻り、変化をたどり続けて春になったときに、ノロジカは骨だけになっていました。そして最終的には、骨もなくなって、ただ土があるだけになりました。彼らは死にまつわって起きている循環全体について興味を持っていました。また、このノロジカの死骸が、他の何かにとっての食べ物にもなり得るのではないかとということにも思い至りました。例えば、キツネにとっての餌、微生物とかのようなどとても小さな生き物にとっても食べ物になるのではないかと思います。そして彼らは生きていたものが死んで骸骨になり、最後は土に還っていくところの絵を描きました。

いろいろなアイデアを持っている子どもたちがいて、教師はそれを全てみんなに見てほしかったので人形劇をすることになりました。その中でノロジカにいろいろなことが起きて最後は土に還っていくのですが、子どもたちが当初から持っていた別の問いがあることに教師は気付きました。

創刊10周年!!

園のリーダーのために
保育ナビ
8月号
子どもの姿ベースの
指導計画

B5判 72ページ
ISBN978-4-577-81460-4 728

地域で愛される園になるためのサポートブック

園のリーダーのために

保育ナビ

2019年8月号

●特集「子どもの姿ベース」の指導計画

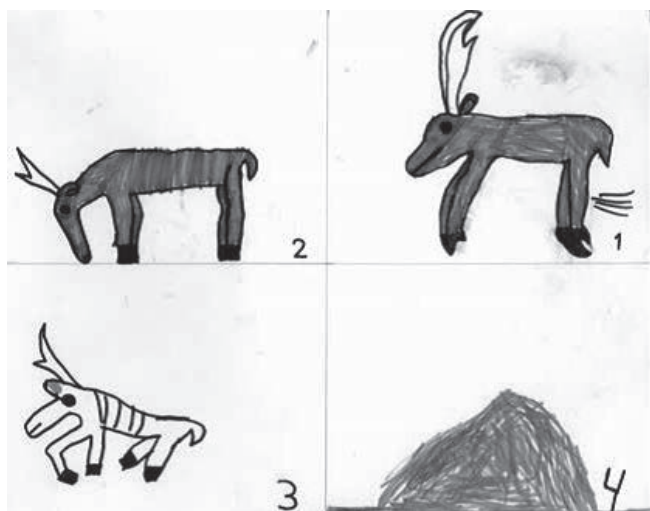
指導計画の作成がツライ作業になっている人はいませんか。子どものおもしろがっていること、夢中になっていることなど、子どもの姿をベースにして指導計画を考えると、保育がワクワクするものになり、子どもも生き生きとします。これからの指導計画について考えましょう。

定価：本体価格 926 円＋税

キンダーブックの **フレーベル館**

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <https://www.froebel-kan.co.jp>
 ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 保育事業部営業本部まで

キンダーブックの **フレーベル館**



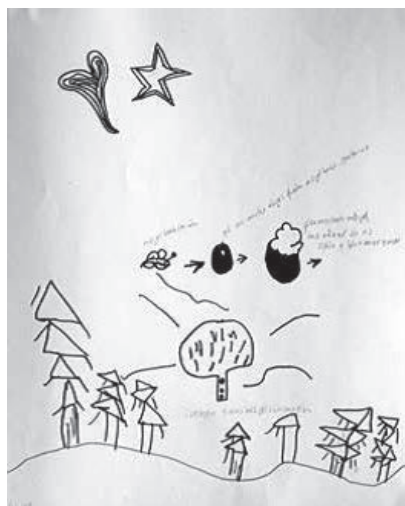
子どもたちはノロジカが土になった様子を見て「ああ、全部土に還っていった。何て悲しいんだ」と呆然としていました。その土に還っておしまいというストーリーがあまりにも悲し過ぎて、きっとこれで終わりではないはずだということで、その土がまた草を生やして、その草を食べに来た新しいノロジカのお母さんのお腹の中に赤ちゃんがいて、そうやって命が繋がっていくという新しい終わり方を子どもたちは考えました。子どもたちにとって最も重要な問いは、「生命はどのように続いていくんだろうか？ 単体というよりは、つながっていくんだろうか？」ということでした。

【カビ・プロジェクト】

子どもたちは、ノロジカのところに何度も通う中で、お腹が徐々に黒くなっていく様子を見ていま

したが、この黒いものは何なのかということを知りなかつたし、調べても分からなかつたので、保護者の中にいた生物学者のところに尋ねに行きました。彼は「黒カビかもしれない」と答えました。そこで子どもたちはカビに興味を持って探究を続けました。彼らは、いろいろな場所で、カビを見つけました。おうちの冷蔵庫やお店、あるいはごみの中などいろいろなところで、カビが見つかりました。

顕微鏡で眺めて見えたもののスケッチを描いて「はじめ、カビは森の中であって、それが家の中に飛んできて、冷蔵庫の中に飛び込んで、サンドイッチやほかのものに飛び散る。カビの細菌がサンドイッチにカビをまき散らす。カビが大きくなって、サンドイッチはカビに覆われて、カビの細菌は森にあるおうちに飛んで帰っていくんだ」という仮説を子どもたちは立てました。「最初は、カビがパンのかけらからどんどん大きくなって、カビの町ができちゃって、カビが歌う。カビのスピーカーから、カビの音楽が聞こえてくるんだよ」と言う子もいました。「そのカビのスピーカーからカビの音楽が流れて、人間を眠らせて、その隙に冷蔵庫の中に入っていく」という話です。この時点で、20人全員がカビにすごく強い興味を持っていて、その中で、ユーモアとファンタジーと事実、この3つの要素が子どもたちの学びのプロセスの中で相互作用している様子が見られました。





▲ノロジカを取り巻く環境

【関係の場としての学び】

子どもたちが作った教育学的ドキュメンテーションを見るといろいろなことが含まれています。新しいノロジカが草を食べていたり、地面の下で何が起きているかや、ノロジカを撃った猟師の矢も見えます。子どもたちが「僕はこんな考えを持っているよ」と一人ひとりのアイデアを出して、友だちがどのように考えているのかを共有する場としての教育学的ドキュメンテーションになっています。

関係の場としての学びの概念には、子どもや教師だけではなく、知識の内容や教育環境も含まれています。学びは関連する全てのつながりの中で起きています。学びが生じるのは、学びの内容だけではなく、子どもたちや教師たちも互いに呼び込まれ、常に動きながら発展し続ける、ある種の関係的な状況なのです。これは知識の内容を拒否するのではなくて、むしろ知識の内容というのは、学びのプロセスの中心にあって、より深く、より複雑なアプロー



▲教育学的ドキュメンテーション

チなのです。関係の場の中で、子どもたちと教師たちは知識の内容から生じた問いの周辺で出会うのです。

このプロジェクトにおける探究は、生命のプロセスと変容を巡って行われています。われわれは、子どもたちが問いを自らのものとし、それを好奇心豊かな大人と共有することで科学への興味や関わりが増し、より深く幅広い知識が生じるのを目撃しました。

これが全ての仮説を組み込んだ最終的な教育学的ドキュメンテーションになります。おしまいです。ありがとうございました。

(徳島県・わかさ幼稚園／岡本和貴)

CHAPPY 園児管理シリーズ クラウド対応

園児管理システム

パソコンでも
タブレットでも
使えます！

園長

先生

出席の管理
未就園児管理
バスコース管理
承認機能完備

パソコン内ではなく
データセンターでの
管理になるので
セキュリティに
優れています。

個人カリキュラム
検査記録
課外活動一覧
指導計画

園で役立つ機能が満載！ しかも簡単入力で時間削減。
チャイルド社の園児管理システムは、
忙しい先生を応援するためのシステムです。

開発・販売 株式会社 **チャイルド社** コンピュータ部

〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-39-11 TEL 03-3333-2345
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>

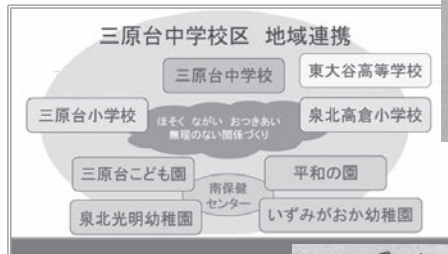
「みんなく」

～眠ることは当たり前にできること？睡眠がかわれば子どもがかわる？
地域とともに睡眠教育を進めてきた実践の報告～

伊東桃代（常磐会短期大学付属いずみがおか幼稚園 主幹保育教諭）



○「みんなく」をはじめるきっかけ



中学校区としては、
おちついてきている。
でも、不登校生徒の
数の増加が気になる。

「眠育」って注目されているらしい。
NHKのクローズ... でやってた。
熊本大学 三池先生だって...

これかもしれない。
とにかく やってみましょう！

眠ることと不登校は
本当に減らせるのかな...

1人の子どもの育ちを地域で
見守りつづけると、保護者に対しても含めて
共通理解が深まりますね。



『眠る』って大事なことで、でもあたりまえ、毎日みんな寝ているはず！ちゃんと寝るってなんだろう？
えっ？ちゃんと寝てないから、困ったことになっている？本当？

○「三原台中学校区での取り組み」

**三原台
中学校区
での
取り組み**

できることは どんなこと？

睡眠？寝ること？ほんとにそれでいいの？

①【1年目】ポスター作成 みんなく授業
②【2年目】はよねでー 絵本製作
③【3年目】みんなくサミット 続・絵本製作

⇒ あれ？
ちよつとなんかなくなってきたかも...

就学前(0歳児から5歳児まで)の睡眠障害の問題行動

- ・朝起きるのが苦手。
- ・登園渋りがあらわれる。
- ・日中の機嫌が悪い。
- ・午前中に眠気があり、午前睡が必要。(午前睡はおおむね1歳まで)
- ・友人間のトラブルが多い。
- ・ボーっとして無気力。
- ・自己主張が強く、通らないとパニックになる。
- ・理由のない衝動性を示す。
- ・視線が合わない。
- ・集団で行動するのが苦手。

「子どもの夜更かし脳への脅威」三池雅久著 集英社新書より

①「啓発ポスターの作成」(ここでは、幼保こども園チームの取り組みを紹介)

就学前の子どもを対象児と設定し、子どもと保護者に眠ることの重要性を訴えるポスターをつくる。近隣の園・学校・保健センター等に掲示をしていく。

眠るだけでいいこといっぱい！
うれしいこと、メリットも
アビリティいろいろ！

社会の流れの中で、保護者の就労が
推奨される今日、大人がストレスを
抱えています。
でも、それは子どもも同じ！
子どもたちが置き去りになっていませんか。

今の子どもたちを眠れるように
するためのキャッチコピー!!
大人が隣でスマホをいじっては、
子どもが眠れるはずはないです。

機嫌のいい日、
多くなった！

毎日、9時には布団に入る。
おやすみのことのようにつけて。
この活動を推奨してから、子どもたちに変化あり!!

けんか・イライラ
減った！

指示が聞かれると増えた！

② 毎月10日は、「はよねるデー」

小中学校宿題の軽減、または「9時に寝る」ことが宿題。地域でみんなく T シャツを着用したり、メール配信をして啓発運動。

③ 「絵本の製作」

小中学校の教材のように、子どもたちに身近な教材を！と願いを込めて、「はやく寝るのは大事だね。」と子どもたち自身の気づきにつながる内容の絵本をつくろう！

お話のストーリーや内容は
ほぼ 決ってきたのですが...
子どもの気持ちに訴える
絵本にするためには...



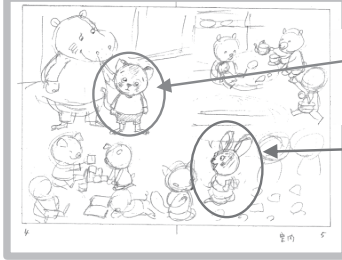


あっちゃん
あがつくん
Interview
絵本作家
さいとうしのぶ先生

アドバイスをもらい、
いろいろ相談にのってもらい、
からはじまり、話をしていく中で、
「描いてみましょうか?」と
嬉しいことばをいただきました。

あっ!
あの人に相談しよう! みんな推進! 地域のために! と絵本づくりに参加。





主人公「ねこすけ」
遅刻が多く、この日園の活動に
遅れてしまて この表情に...

主人公のクラスメイト「うさぎ」
ねこすけの友達。クラス1番のしっかりもの。
ねこすけの遅刻の理由をさぐり、解決に導こうとします。



この絵本を知った子どもが、
小学校でこの教材を手にする！
＝つながる指導＝

小中学校の教科書づくりにも
参加しました。
卒園して間もない子どもたちに
わかりやすいものに!
子どもたち自身が眠ること
興味をもてるものに!

“みんなく”の大切さが
わかりやすく記された大人用の本です。

著者の 木田哲生先生は、
H28年度まで 三原会中学校 生活指導の先生で
みんなくを広める中だった。H29年度より
堺市教育委員会にて、堺市の小中学校に
“みんなく”を広める活動を続けています。



子どもの行動に困り感を感じていたら、
今一度 “眠る”ということに 立ちかえてみてください。
何か、みえてくるものがあるかもしれません。



子どもたちの 明日の笑顔のために！ 一緒に考えましょう！一緒に何かははじめませんか？

※この資料に掲載しているイラストは、
さいとうしのぶ先生の作品です。

子どもの食環境に関する今後の課題 ～H30 年度のアンケートの分析から～

○福元 芳子(認定こども園 西九州大学附属三光幼稚園・西九州大学附属三光保育園)
吉浦 沙知子(西九州大学附属三光幼稚園) 松山 華子(西九州大学附属三光保育園)

1.研究の目的

幼児期は、食生活に関して多様な経験をしながら、よい食習慣の基礎を培う大切な時期である。このことから、本園では定期的に保護者へのアンケート調査を行って、子どもの食環境の実態や保護者の悩みを分析し、必要とされる食育の取り組み等、改善を行っている。今回、新認定こども園教育・保育要領に示された「第3章第3節食育の推進」の中で「5. 保護者や関係者等との連携した食育の取り組み」及び「6. 一人一人の対応(4)食を通した保護者への支援」に重点を置き、調査結果から分かった課題について考察し、今後の園における食育活動や保護者支援・子育て支援の在り方について提言する。

2.アンケートの方法

幼稚園及び保育園の保護者を対象に、選択式及び自由記述によるアンケート調査を実施した。

(1)対象者

・幼稚園 333 名

(内訳:2歳児 30名、3歳児 101名、4歳児 99名、5歳児 103名)

・保育園 62 名

(内訳:2歳児 17名、3歳児 16名、4歳児 14名、5歳児 15名)

(2)実施期間

平成30年4月20日～平成30年4月26日

(3)回収率

・幼稚園 91.9%(306名/333名)

・保育園 96.8%(60名/62名)

(4)主な質問内容

- 家庭での食育状況について(17項目)
- 子どもの身体状況について(8項目)
- 子どもの食に関する知識について(9項目)
- 家庭での和食や伝統料理の取り組みについて(9項目)
- 家庭での食環境について(2項目)
- 園で取り組んでほしい食育活動について(1項目)

3.結果

子どもの食環境の実態と保護者の悩み

①家庭での食育状況について

- ・実行している(59.6%)
- ・必要だとは思いますが実行していない(39.6%)
- ・必要だと思っていない(0.3%)

②「食育を必要だと思うが、実行していない」と答えた保護者の理由として(複数回答可)

- 1位 食に関する知識が乏しい(60.0%)
- 2位 忙しくて時間が取れない(53.1%)
- その他…食育の概念が何か分からない、食育を実行しているができていないか不明等。

③保護者が抱える子どもの食事面について心配なこと(複数回答可)

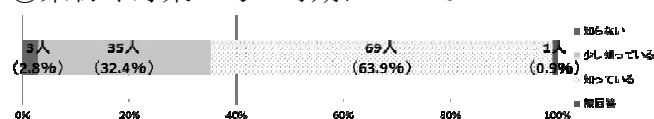
- 1位 食事マナー(45.9%)
- 2位 好き嫌いが多いこと(34.4%)
- 3位 食事中落ち着きがないこと(29.0%)

④園で取り組んでほしい食育活動(複数回答可)

- 1位 人気メニューのレシピ提供(71.3%)
- 2位 親子クッキングの開催(41.8%)
- 3位 食に関する講座の開催(9.0%)
- その他…給食の写真をHPに掲載してほしい、働く親でもできる食育を教えてほしい等。

食に関する理解度について(5歳児対象)

⑤果物や野菜の旬の時期について



⑥地元の食材とそれを使った料理について



家庭での和食や伝統料理への取り組み

⑦和食を家庭で作る頻度について

「赤飯」では『作らない』と答えた保護者が74.3%、「豆や大豆を使った料理」は『作らない』『年に数回作る』が半数以上、「酢の物」は『作らない』『年に数回作る』が約40%という結果だった。

⑧佐賀県の郷土料理について

「にいもじ」では『知らない』と答えた保護者が80.6%、「かけ和え」は『知らない』が47.8%、『作ったことがない』も合わせると74.0%にも上った。

4.まとめ

～アンケートから見えてきた課題～

(1) 結果②④より

→保護者は食に関する正しい知識や技術の不足を自覚

(2) 結果①②④⑦より

→保護者は忙しい生活の中で食育の時間が取れない

(3) 結果⑤⑥⑦⑧より

→子どもは味覚の基礎体験や料理にふれる機会が減少

(4) 結果②③④より

→保護者は子育ての中で食に関して不安がある

(5) 結果⑤⑥⑦⑧より

→伝統料理や郷土料理などの日本の食文化が衰退傾向

5.提言

～保護者支援・子育て支援の視点から改善した取り組み～

(1) ホームページに給食の写真を掲載

家庭でも作りやすいように、食材、必要な分量、切り方盛り付け等の仕方をHPに実物を載せて紹介する。

(2) 食育だよりでレシピを提供

給食の人気メニューや子どもが好む味付けの調味料の分量を紹介。また、市販の調味料を活用した時短レシピの提供を行う。

(3) 保育者と栄養士の同僚性を生かす

保育者と栄養士が子どもの気になる様子について報告・相談し合ってチームとして対応する。食に関わる体験活動を保育者と栄養士と一緒に取り組むなど協力して食育を推進していく。また、保護者からの食に関する相談に対応できるように多様な人材を配置して支援体制を整える。

(4) 地域の人材とネットワークをつくる

給食の食材納入業者(魚屋・八百屋・肉屋など)も食育に参加してもらい、魚をさばく実演など子どもの目の前で食材にふれる機会を増やす。また、活動内容については写真を活用しHP、おたより等を通じて保護者に発信する。

6.園での食育活動の様子

(1) ダシとり体験

子どもたちと煮干し、昆布、かつお節を使ったダシとりを実演し、味わう体験を行う。



いい香り♪

和食の良さを知る

うま味を実感



(2) 味覚体験

保育者と栄養士が協同して、子どもが自分たちで育てた“きゅうり”を「さ(砂糖)・し(塩)・す(酢)・せ(醤油)・そ(味噌)」で味わう。

日本の伝統的な調味料の味を知る



五味を味わう

すっぱい!



あま〜い!



言葉で表現する楽しさ・語彙力の獲得

(3) 給食で郷土料理を提供

月に1回「郷土料理の日」として地元の食材を使った料理や伝統料理を提供。その日の給食の写真やレシピ、由来を保護者に発信することで情報提供を行う。

食文化の継承



保育を開かれた場におく

山梨県では、関東地区大会で発表を行う園に対して、主題に沿った保育事例を定期的に報告する研究会を半年以上にわたって行い、発表内容を組み立てていく支援をしています。事例については、助言者を含めてみんなで具体的な内容を検討したり、あるいは、理念やねらいに立ち返って議論したりして、次の実践に繋げていきます。ひとつの課題を継続的に検討していく過程で、次はどのように保育を展開していけばよいかが発表園は次第に見えてきます。

本来保育者には、子どもたちの姿に応じて、保育の楽しさや自由を確保しながら、次の展開を刻々と変化させていく力が必要ではないでしょうか。けれども、そのような保育を構想する力を育てるためには、具体的な事例の検討を地道に積み重ね、さまざまな可能性に考えを巡らす経験がなければなりません。

そのためには、保育をその園の中だけに留めておくのではなく、園の外に開き、保育者自身に自園の保育の理念と評価があらためて確認できる機会が必要だと思います。

このような方法のひとつの発展的な形態として、本県では山梨大学の秋山麻実教授の主導で、今年の5月から新たに「探索保育研究会」という活動が始まりました。この研究会には幼稚園・保育園などの区別なく多様な立場の人が参加しています。また、大学の教員が専門分野の助言者として多数参加し、各園で行われているさまざまな保育の実践を、同時進行で検討できる態勢を考えています。まだ始まったばかりですが、今後の展開を期待しているところです。

(山梨県私立幼稚園連合会教育研究委員長、笛吹市・石和誠心幼稚園／上田京介)

高知県の取り組み

セミの声が園庭に響きはじめました。子どもたちは、登園するやいなや虫取り網を持って戸外へ飛び出して行きます。夜は、「よさこい鳴子祭り」の練習が佳境を迎え、一段と祭りモードが高まっています。ここ高知には一足早く、ひとときわ熱く力強い真夏がやって来ます。

保育者不足が全国的な課題となっていますが、高知県も例にもれない状況です。これまで、就職フェアや養成校説明会など、様々な募集活動を進めてきましたが、深刻さは増す一方です。そのような中、本年度から教育実習を通して、この仕事の素晴らしさを伝えるための議論を始めました。私たちが未来の先生と直接関わる実習で、私立幼稚園の良さと子どもたちの魅力を実感させ、幼稚園現場への就職意欲を高めたいと願い、養成校とも協議を進めています。

教育・保育の質向上については、研修の充実を中心に進めています。認定こども園が70%を超える本県では、0～2歳の成長から幼児教育を再度考えてみるのが大切になっています。夏期教育研修会の3日間には、その枠を予定しています。そして、この夏季研のうち6時間は、教員免許更新講習も兼ねています。四国地区教育研究大会の更新講習を加えれば、毎年研修に参加し、普通に受講するだけで、選択科目の12時間分の受講を終えることができます。

他にも、幼児教育・保育の無償化の最新情報の勉強会など全日私幼連への加盟を活かした取組があります。これら多様な取組を通して、高知県私幼連に加盟することの意義や価値を明確にし、加盟園や組織の活性化を図っています。

(高知県私立幼稚園連合会副会長、高知市・あたご幼稚園／野村貞夫)

主な会合予定

◎研修会

8月19・20日 第10回幼児教育実践学会 静岡県・静岡市

◎令和元年度・地区教研大会日程

北海道地区	7月29日	北海道・札幌市
東北地区	10月18・19日	青森県・青森市
関東地区 ・神奈川地区	8月21・22日	山梨県・甲府市
東京地区	7月24・25日	東京都・千代田区
東海北陸地区	8月1・2日	富山県・富山市
近畿地区 ・大阪地区	7月25・26日	兵庫県・神戸市
中国地区	8月19・20日	岡山県・岡山市
四国地区	8月1・2日	徳島県・徳島市
九州地区	8月8・9日	熊本県・熊本市

会合の日程は変更になる場合がございます。
予めご了承下さいませよう、お願いいたします。

編集後記

自園は今年度より、幼稚園型認定こども園に移行し、ようやく1学期を終えようとしています。昨年は、厨房や乳児室等の増築、それに係わる市役所への施設設備補助のための書類、こども園移行のための書類、借入金のための書類等々、大量の書類の提出に追われました。また、増築の期間に起こった通常の保育への影響に対する問題解決など大変な1年だったと思います。ようやく迎えた4月でしたが、初めての自園調理による給食、0・1・2歳児への対応、職員数の増加、シフト勤務の実施、全職員での打ち合わせができない等、近隣の園長先生方から聞いてはいましたが、実際に直面して初めて実感することもたくさんありました。10月からの無償化を控え、また新たな問題が起ってくるかもしれませんが、幼児教育のあるべき姿を学び続け、実践していけるよう、制度に振り回されることなく努力していきたいと思います。

(調査広報専門委員・波岡伸郎)

令和元年度（第6回）免許状更新講習の認定一覧

●必修領域「全ての受講者が受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
神奈川県大和市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は9月14日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	小泉 裕子（鎌倉女子大学 児童学部教授）	6時間	令和元年9月7日	100人	平 31-80011-101122号



新しいものを見るたび、触れるたび、
目覚ましく成長する子どもたち。
子どもたちにとって、毎日が成長の舞台です。
育む環境で、子どもたちの明日は変わる。
だから、私たちは大切なことを「環境」から考えます。
好奇心や想像力、勇気や感動。
そして、子ども同士の関わり合い。
子どもたちが大切な時期に、確かな一歩を踏み出せるように、
最良な環境の未来をつくりあげていきます。

こども環境の未来をつくる



山形県 山形市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は、9月8日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	大桃 伸一（東北文教大学 教授） 永盛 善博（東北文教大学 准教授）	6 時間	令和元年 9 月 7 日	100 人	平 31- 80011- 101123 号
東京都 千代田区	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は9月15日開催の選択必修講習と連続して行う。	青木 久子（青木幼児教育研究所（AEER） 主宰） 小林 紀子（青山学院大学 教授）	6 時間	令和元年 9 月 14 日	250 人	平 31- 80011- 101124 号

●選択必修領域「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
神奈川県 大和市	本講習では、学校を巡る近年の状況の変化を見ながら、幼児教育の在り方や、その為の幼児教育者の役割とは何か、また、質の高い幼児教育をめざしていく為に、幼児教育の現場では、今後、何を大切にして実践していかなければならないかを再確認しあう。なお、本講習は9月7日開催の必修講習と連続して行うものです。	森本 壽子（鎌倉女子大学 短期大学部初等教育学科教授）	6 時間	令和元年 9 月 14 日	100 人	平 31- 80011- 302324 号
山形県 山形市	本講習では、「幼稚園を巡る近年の状況の変化」「幼稚園教育要領の改訂の動向等」「社会的養護と保育相談支援のあり方」について、最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題の理解を深めることを目指す。なお、本講習は9月7日開催の必修講習と連続して行うものです。	佐久間 美智雄（東北文教大学 短期大学部准教授） 下村 一彦（東北文教大学 准教授）	6 時間	令和元年 9 月 8 日	100 人	平 31- 80011- 302325 号
東京都 千代田区	「学校を巡る近年の状況の変化」「学習指導要領の改訂の動向等」について、幼稚園教諭に求められる最近の知識・技能の習得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。本講習は、9月14日開催の必修講習と連続して行う。	加藤 篤彦（武蔵野東第一幼稚園 園長） 佐藤 康富（鎌倉女子大学 短期大学部教授）	6 時間	令和元年 9 月 15 日	250 人	平 31- 80011- 302326 号

●選択領域「受講者が任意に選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
宮城県 宮崎市	村上先生には、幼児の脳の発達から見た幼児教育について、脳科学者の専門家として現状を概説し、さらにその解決法に考える講習をしていただきます。また、福田先生には、昨今の食生活の多様化が幼児の身体・精神の発育・発達に与える影響に鑑み、食育の必要性、さらに家庭・地域に対する連携・支援の在り方等について講習をしていただきます。	村上 昇（宮崎大学 IR推進センター特別教授） 福田 亘博（宮崎国際大学 教育学部教授）	6 時間	令和元年 9 月 3 日	100 人	平 31- 80011- 508863 号
山形県 山形市	本講習は、保育者としての専門性を高めることを目的とし、特別支援教育について理解を深めるため、障がいの基礎知識を確認し、保育環境の構成における必要な配慮などについて学ぶものである。	東 義也（尚絅学院大学 教授）	6 時間	令和元年 9 月 14 日	100 人	平 31- 80011- 508864 号
山形県 山形市	本講習は、保育者としての専門性を高めることを目的とし、幼児理解・保育の振り返り・遊びの充実について学び、幼児教育の要について認識を深めるものである。	奥山 優佳（東北文教大学 短期大学部教授）	6 時間	令和元年 9 月 15 日	100 人	平 31- 80011- 508865 号
山形県 山形市	本講習は、保育者としての専門性を高めることを目的とし、乳幼児の心身の発達について理解を深め、発達心理学等における最新の知見について学ぶものである。	中俣 友子（東北文教大学 短期大学部講師）	6 時間	令和元年 9 月 16 日	100 人	平 31- 80011- 508866 号
北海道 札幌市	幼児教育及び保育について理解と実践をふり振り返り、応用力をつけ現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	伏見 千悦子（北翔大学 教育文化学部教育学科准教授） 工藤 ゆかり（北翔大学 教育文化学部教育学科講師）	6 時間	令和元年 9 月 21 日	100 人	平 31- 80011- 508867 号
北海道 函館市	幼児教育及び保育について理解と実践をふり振り返り、応用力をつけ現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	佐藤 公文（北海道教育大学旭川校 非常勤講師） 小川 久恵（札幌国際大学 短期大学部幼児教育保育学科講師）	6 時間	令和元年 9 月 22 日	100 人	平 31- 80011- 508868 号
北海道 札幌市	幼児教育及び保育について理解と実践をふり振り返り、応用力をつけ現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	佐藤 公文（北海道教育大学旭川校 非常勤講師） 小川 久恵（札幌国際大学 短期大学部幼児教育保育学科講師）	6 時間	令和元年 9 月 22 日	100 人	平 31- 80011- 508869 号
北海道 札幌市	幼児教育及び保育について理解と実践をふり振り返り、応用力をつけ現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	平野 良明（札幌国際大学 短期大学部幼児教育保育学科教授）	6 時間	令和元年 9 月 27 日	150 人	平 31- 80011- 508870 号
北海道 釧路市	幼児教育及び保育について理解と実践をふり振り返り、応用力をつけ現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	吉田 耕一郎（北翔大学 非常勤講師）	6 時間	令和元年 9 月 28 日	90 人	平 31- 80011- 508871 号